

序論に代えて——近代天皇制と顕彰……………高木博志 3

一 明治維新と神武顕彰

二 明治維新の顕彰

三 南朝顕彰

四 戦時下の顕彰

五 戦後の歴史意識と文化財問題

六 本論集の構成

第I部

近代天皇制と顕彰

神武陵と橿原神宮の周辺——国家神道・教派神道再考……………幡鎌一弘 45

一 教派神道の時代

二 神武陵と橿原神宮の周辺

神功皇后伝説の地域的展開と「皇国」意識——金沢の八幡信仰とその表象

本康 宏史 83

一 神功皇后伝説と「皇国」意識

二 加賀藩の八幡信仰

三 八幡社の近代と「皇国」意識の形成

明治前期の陵墓・皇霊祭祀の特質

上田 長生 115

一 幕末期の陵墓祭祀

二 明治初年の皇霊・陵墓祭祀の特質

三 明治初年の陵墓祭祀の実態

四 明治前期の陵墓祭祀

明治期における地域の楠公父子顕彰

尾谷雅比古 145

一 維新官僚の顕彰

二 顕彰団体と地方長官

近代遙拝所と地域社会——奈良県下の事例を中心として

市川 秀之 177

一 遙拝所碑の分析

二 若草山遙拝所の創始

三	明治初期の村落部の遙拝所とその性格	
四	遙拝所の破損と再建	
五	石造の遙拝所碑の建立	
六	遙拝所碑建立の主体と契機	
	神国大博覧会開催計画とその行方——昭和初期における松江観光都市化戦略とその帰結	能川 泰治 221
一	神国博開催計画	
二	石倉市政	
三	神国大博覧会から支那事変博覧会へ	
	中島久万吉筆禍事件の社会的背景	廣木 尚 249
一	中島久万吉筆禍事件	
二	「義人」の記憶	
	「国体明徴」と宗教運動	福家 崇洋 279
一	一九二〇年代の政治・社会進出	
二	国家改造運動との提携	
三	国柱会の国体運動	

四 昭和神聖会と「昭和維新」

第Ⅱ部

社会のなかの天皇制

明治維新と画壇の再編

中野 慎之

313

一 明治新政府と画家

二 明治維新後の御用絵師

三 京都画壇の再編——如雲社と画学校

四 初期美術政策の概要——明治一〇年代の勸業・帝室・美術

五 初期美術政策の絵画史的位置

森有礼「不敬」・暗殺事件顛末——虚実の報道を通して

田中 智子

345

一 事件前の森の行動とその報道

二 暗殺事件発生——何が問題となるのか

三 森文相の葬儀と追悼

四 報道の拡大

五 暗殺者殺害の後始末——いかに公的処理にいたったか

六 暗殺者擁護の動きと官の統制

明治中期の皇室と社会——長野県横川山御料林における天皇・皇室の「不在」

池田さなえ

379

一 御料地の編入・創業

二 開明社の横川山御料林内立木払下げ請願と地元住民

三 「川下げ」をめぐる紛糾

四 一件の結末

近代天皇制と大麻問題

ジョン・グリーン

405

一 神宮大麻の「社会誌」——宇治山田から岡山県へ

二 神宮大麻の「文化誌」——明治初期から大正末期まで

三 昭和戦前期にみる大麻頒布の原理

大正・昭和戦前期の伊勢神宮参拝の動向——娯楽とナショナリズムの両側面から

平山昇

433

一 ナショナリズムの文脈

二 娯楽・ツーリズムの文脈

三 新たな参拝層（Ⅰ）——エリート層の正月旅行

四 新たな参拝層(Ⅱ)——修学旅行

五 新たな参拝層(Ⅲ)——実業家

六 新たな参拝層(Ⅳ)——その他

天皇制ファシズムと地域社会——「勝つために戦ふ村」の虚構と現実 遠藤俊六 465

一 大植啓治がファシズムの「先導者」になるまで

二 翼賛体制下の大植啓治と見山村

三 ファシズムと戦争賛美の思想

三笠宮の「史学会発言」と社会……………河西秀哉 495

一 占領期の三笠宮の行動とイメージ

二 「わが思い出の記」をめぐって

三 紀元節復活反対の動き

四 「史学会発言」をめぐって

「近代天皇制と社会」研究班のあゆみ

執筆者一覧

索引

序論に代えて

——近代天皇制と顕彰

高木博志

はじめに

本論集では、天皇制とそれを支える社会を含み込んだ視点から、日本近現代史を考えていきたい。そもそも「天皇制」という言葉自体が、日本共産党の三二年テーゼのなかで、一九三〇年代の社会に向き合いながら生み出された概念である。

一九八〇年代までは講座派の影響を受けた「絶対主義的天皇制」研究がさかんで、国家論が論じられた。なぜなら一九七〇年代の民衆史研究において、戦う相手である国家そのものがわからないとされ、国家論研究が浮上したことも一因である。一九九〇年代以降は、ベルリンの壁やソ連が崩壊し、昭和天皇の戦争責任問題が遠のく平成の時代の歩みとともに、天皇個人の研究であったり、天皇像・イメージの研究に焦点が移った。そこで、明治・大正・昭和の各天皇をその時代の政治史やメディア状況に位置づけて考える研究が出てきている。

そのようななか、現在、明仁天皇の退位と代替わりを迎え、「祝意」への国民の同調が求められている。今日の象徴天皇制は、一九〇二二世紀において、もともと国民の支持率、認知度の高い時代の一つを迎えているので

はないか。今日、もっとも高い支持を得る天皇制が現れるにいたったのはなぜか、それを解明したいとの問題意識から、近代から現代へと形成・展開してきた天皇制と、それを支えてきた「社会」の秘密に迫りたい。

とりわけ本論集では、天皇制と社会のあり方の変遷に留意した。

国家神道に包摂されない神武信仰の教派神道的な展開、明治維新期に強い政治的役割を果たした天皇陵、明治期の御料地における皇室不在の地域の紛争、「不敬」についての公的な説明や対応のない森有礼「不敬」・暗殺事件といった、皇室・天皇制の制度形成過程にあった明治期。それに対して天皇制が社会に浸透する日露戦争後から第一次世界大戦後になると、大衆社会にマッチした新しいナショナリズムが生まれ、一九三〇年代には理念化した歴史上の天皇を神格化する「国体論」が暴走するのである。

かつて籠谷次郎が、制度としては明治前期に登場した御真影や教育勅語の奉戴が、実際に小学校の現場で受容されたり、日の丸・君が代の公式の解釈が定着するのは一九三〇年代以降とした、教育史から提起された制度と社会（実態）の乖離の問題が、あらためてここでも検証される⁽¹⁾。

（１） 国民道徳と歴史学

近代に創りだされた「万世一系」の血脈神話を核とする歴史意識が、国民道徳として社会に浸透することにより、天皇制存続のメカニズムとなったが、本論集ではその解明の一端に迫りたいと考える。

たとえば今日、倭五王の一つの王墓でしかない大山古墳^{だいせん}が仁徳天皇陵古墳として世界遺産登録されようとしている。国内推薦が決まった二〇一七年七月三十一日、文化庁の文化審議会世界遺産部会の記者会見で、仁徳天皇陵という呼称は「学術的には違う墓」ではないか、という新聞記者の質問がでた。それに対して、部会長を務める古代史研究者の佐藤信は、「大山古墳、仁徳天皇陵古墳については、陵墓として資産に入れるという場合は、そ

れなりに、宮内庁で呼んでいる陵墓名（仁徳天皇陵——引用者）というのは、オーソライズドされたものじゃないのかなと思っている」と答えた。大正期の津田左右吉は、『古事記』『日本書紀』は五〜七世紀の政治思想を反映したものに過ぎないと論じたが、このときの佐藤の回答は、その学知を前提にできた戦後歴史学・考古学の営みを否定するものではないか？ この「仁徳天皇」と王墓を結びつけるのは、律令国家形成期と一九〜二一世紀の「万世一系」神話を創りだす、古代と近現代における天皇制の支配の物語である。²⁾

また、四條畷市・島本町など六市町村によって、南朝に仕えた楠木正成にかかわるものを日本遺産として顕彰する動向があるが、楠公の事績は『太平記』上の物語にすぎないものも多い。さらには文化財保護法「改正」にともない、「活用」という美名のもとに観光至上主義がまかりとおっている。そこでは歴史の真正性より、神話や物語が優先される。早くは日露戦争後の社会に現れた、歴史の史実より名分論を重んじ、国民道徳を優先する神武聖蹟調査や南朝顕彰・明治天皇聖蹟史蹟指定などの、「名教的な歴史学」は、アジア・太平洋戦争後の戦後改革のなかで否定されたにもかかわらず、今、復権のきざしがある。

歴史学の戦後改革のポイントは史実と神話との腑分けである。戦後の三笠宮崇仁^{たかひと}の発言も、そこに位置づく（本論集河西秀哉論文）。皇国史観を否定し、社会科学の改革がおこなわれた。ところが二一世紀になって、神話・物語・伝説が、観光至上主義のなかで、無批判に復権されようとしている。それは戦後の学知をないがしろにすることにならないか。

東京都の「旧跡」である平将門の首塚は、日露戦争後に将門の「逆賊」雪冤運動や江戸文化・神田祭の顕彰のなかから新たに史蹟として意味づけられたものであった。³⁾「仁徳天皇陵古墳」をはじめ^も百舌鳥古市古墳群^{ずふるいち}の多くは、五世紀の倭五王時代の墳丘・周濠の形状そのままではなく、一九世紀の修陵事業で造成されたものである。なによりも天皇陵名そのものが、記紀批判をともなわない「一九世紀の学知」にもとづくものである。さらに

『太平記』上の物語に過ぎない、桜井の楠木正成・正行父子訣別の地も然り。黒板勝美がいうように「南北朝時代の史蹟としては何等歴史的の価値なしとしても、幕末に於て国民を感奮せしめた一の史蹟として、また之を保存する必要がある⁽⁴⁾」。これが、国民道徳に従属する戦前期の歴史学の特色であり、こうした真正性のない伝説地を二一世紀に復権しようとしている。

(2) 天皇の裁可の絶対性

明治神宮のホームページに、祭神は「なぜ昭憲皇后でなく昭憲皇太后のですか？」という問いに対する説明がある。本来、生前の最高位をもって追号すべきとの原則からすれば、明治神宮の祭神は「明治天皇・昭憲皇后」が正しい。しかし昭憲皇后死去の一九一四年（大正三）に「当時の宮内大臣が昭憲さまのご追号を皇后に改めないで、「昭憲皇太后」としてそのまま大正天皇に上奏し御裁可」になったゆえとする。この誤りを改めない理由の一つを「天皇より御裁可されたものはたとえ間違っているとしても変えられない」ためと理由づける。

天皇の勅の絶対性にかかわって、明治期に、画家より学者であるとの自意識を持っていた富岡鉄斎は、長野県下伊那の浪合村^{なみあひ}で『浪合記』にもとづき尹良親王^{ゆきよし}の墓を決めようと地元とともに運動し、一八八一年に宮内省の治定を引き出した。しかしのちに鉄斎は、『浪合記』は江戸期の偽書と見抜き、内心は治定された浪合の尹良親王墓は誤りであると考えたが、いったん天皇や宮内省によって決定された陵墓は受け入れなければならないとした。

同様に宮内省の陵墓考証官の和田軍一は、治定された継体天皇陵（太田茶臼山古墳）は誤りで、一九二〇年代の歴史地理学・歴史学の成果から今城塚^{いましろづか}こそが真陵であるとして、宮内省内部で唱えたが、いったん天皇・宮内省により裁可され治定された陵墓の体系が変更されることはなかった。天皇の裁可は、たとえ誤っていても絶対であり、

国民はアブリオリに受け入れなければならない⁽⁵⁾。

こうした国民道徳や名分論にもとづく歴史意識をもつ天皇制の社会への浸透を考えると、まずは羽賀祥二の問題提起を皮切りに、ここ二〇年間に研究がさかんになってきた「顕彰」の問題を考えたい⁽⁶⁾。なぜなら皇室につながる歴史の顕彰や天皇制の「万世一系」原理は、近代に創りだされる天皇制の権威の源泉となる。そして創り出された神話や伝説は、歴史の史実より祖先崇拜や家族国家を重んじる、名教的歴史観や国民道徳に通底していた。その「作為」性を考えることで、本書『近代天皇制と社会』の序論に代えたい。

一 明治維新と神武顕彰

顕彰論の総論として、近現代を通じて、もっとも重要とされた、神武天皇・南朝・明治維新の「三大顕彰」を考えたい。そして近現代における顕彰をめぐる研究上の問題点を、史跡などの文化財や歴史意識を中心に取らげたい。

（1） 記紀のなかの神武天皇陵

『古事記』『日本書紀』に基づく、神武東征の神話では、日向国から東征の末、辛酉の年（神武紀元年）の正月朔日（BC六六〇年二月一日）に橿原宮で即位した。即位後四年、皇祖の霊の祭場である鳥見山中靈時^{とみのやまのまつりのたまは}をたてた。

『日本書紀』の記述によると、紀元七十六年三月一日、橿原宮で神武天皇は一二七歳で死を迎えた。翌年九月一二日、畝傍山^{うねびやま}東北^{うしろのすみ}に埋葬された。『古事記』では「御陵は畝火山の北の方、白檮尾^{かしのおへ}の上に在り」とされた。『日本書紀』では「明年の秋九月の乙卯^{きのとりのう}の朔丙寅^{ひのえとりのひ}に、畝傍山東北陵^{はふ}に葬りまつる」とのみ記された。

ま行	
松江観光協会	232,234
『団団珍聞』	347,374
円山派・四条派	320,322,323
満洲国	226,236,237,243
満洲事変	287,288,466
水分神社	167
湊川神社(楠社)	146~152,155,156,171
見山村	465,484
民衆宗教	71
明治会	283,284,288
明治神宮	433,434,438~440,442,452,455,456
明治天皇祭	182,184
明治天皇陵	439
明六社	352
模範村	484

や行	
安江八幡宮	84,90,107
遙拝儀礼	177
遙拝式	184,190,191,202
遙拝所	177,179,180,186,187,189~193, 196,201,202
遙拝所碑	177,178,181,182,194~196,202,203
翼賛模範村	465,489
翼賛壮年団	480
翼賛体制	476
横川山御料林	382~384

ら行	
乱刺法	467,468
陸軍歩兵第七連隊	104
立憲養正会	283,288,289,291,294~297,303
立身出世主義	488
留守官	129
龍池会	327~330,332
陵墓・皇霊祭祀	115
陵墓祭祀	116,119
労働争議	450,451
ロシア革命	439

わ行	
若草山遙拝所	190,191,202

『田中正造之生涯』 268
 治安維持法 439
 地価修正運動 468
 千早城 145, 147, 156, 166～168
 千早神社 156
 地方改良運動 471
 『中外新論』 260, 261, 263
 『中外日報』 423～425
 朝鮮通信使 103
 通俗道徳 488
 ツーリズム 242, 244, 442, 444, 451, 453
 鶴沢(派) 321
 帝国大学 353, 355, 359
 帝室技芸員 329, 333, 334
 帝人事件 255～257
 天皇機関説 253, 257, 422
 天皇機関説事件 250, 279, 281, 282, 294～296, 298, 299, 302～304
 天皇制イデオロギー 488
 天皇制ファシズム 466
 天皇の代替り 435
 天満天神社(大阪) 360
 天理教(会) 50, 52, 71, 168
 天龍寺 129
 道院 285, 286, 288, 292
 同志社 375
 土佐(派) 321
 主殿寮出張所 132
 虎ノ門事件 283

な行

内儀祭 134
 内国絵画共進会 314, 328, 329, 332～334
 内務省 411～416, 420, 422, 423
 内務省式改良便所 484
 南木神社 155, 158, 169
 楠公首塚 158
 楠公祭 149, 150
 楠公誕生地 158, 162, 169, 172
 楠公父子関係史蹟 156, 171
 楠公墓所(碑) 147, 148, 150
 楠公六百年祭 147
 南山義勇講社 53
 南朝 146, 152, 171, 251, 266, 272

南北朝正閏問題 146, 253, 256, 257, 274
 日露戦争 168, 169
 日韓同祖論 101
 『日新誌』 162
 日清戦争 166, 168, 172
 日中戦争 221, 237, 238, 243
 『日本』(『東京電報』) 346, 347, 350, 351, 365, 369, 370, 373
 『日本外史』 145, 152
 日本型政教分離 47
 日本主義ジャーナリズム 251, 254
 『日本書紀』 502, 505, 507
 『日本人』 347, 350～352
 日本農民組合 289
 日本美術協会 329, 331
 女房 124
 女官 127
 仁徳天皇陵 115
 農村経済更生指定村 484
 農村ファシズム 465

は行

八幡信仰 88
 八幡大菩薩 88, 96
 埴生八幡宮 92
 万世一系 116
 藩祖前田利家三百年祭 100
 番町会 255, 256
 『日出新聞』 370
 ひもろぎ 421, 423, 427
 琵琶湖疏水下流補償要求運動 468
 賓日館 349, 362
 ファシズム 466, 481
 普通選挙 271
 文化誌 406, 409
 文久の修陵 116
 平癒祈願 438
 別格官幣社 152, 164, 166, 171
 報国社 52
 戊辰戦争 124
 没収指定図書 466
 歩兵第二連隊 239
 歩兵第六三連隊 238, 239, 242

小楠公五五〇年祭	165
小楠公墓所	163
聖母	87
昭和神聖会	273, 281, 290, 292~294, 299, 300, 302~304
如雲社	320~324, 326, 331, 332
諸陵寮	120
神宮司庁	351, 363
辛亥革命	286
神祇院	422, 423
神祇官	119
神祇省	121
神宮神部署	412, 413, 416, 417, 420, 422, 424
神宮教	427
神宮教院	411
神功皇后伝説	84
神功皇后陵	117
神宮大祭典会	67
神宮大麻	405~410, 412, 415, 416, 418~420, 422~424, 426
神宮奉斎会	412, 413, 415, 427
神国大博覧会	221, 223~228, 235, 236, 238, 239, 243, 244
神社局	412, 413, 415, 422, 427
神社局長	416, 421
神社非宗教論	454, 456
真宗	424, 425
神習教天輪王講社	51
神職会	415, 416
新体制	473, 474
神道歟火教会	60
神道直轄畝傍教会ハヶ国徳島本部	65
『神徳記』	168
新日本国民同盟	290, 292
神風講社	368
神仏分離	130
神武創業	106
神武天皇祭	178, 188, 190, 191
神武天皇陵	56, 59, 117, 179, 182, 184
神武レンゾ	86
人類愛善会	285, 287, 288, 293, 303
『水郷松江と神国出雲』	232
住吉(派)	315, 316

住吉大社	89
諏訪薪炭株式会社	391, 392, 394
生活改善運動	444
正辰祭	115
濟々齋	360
青年会	199
青年団体	185, 195, 198~202
『政論』	351
世界紅卍字会	285, 286, 292
世界宗教連合会	285, 303
選挙粛正中央連盟	297
全国神職会	407, 415
全国篤農家懇談会	481, 482
戦争責任	489
泉涌寺	118
宣命	116, 117
創建神社	97
創唱系新宗教	48
即位大典	182
祖国民衆主義	265

た行

第一次大本事件	285
第一次大戦	439
大逆事件	435~437
第九師団	104
体験至上主義	434, 456
大正大礼	438
大成教	51, 52
大成教畝傍樞原教会	52, 64
大成教太祖教会	53
大成教天倫教会所	51
大政翼賛会	473, 474, 479, 480
大政翼賛会中央協力者会議	487
大政翼賛会臨時中央協力者会議	481, 489
大喪	438
太祖教会	64
『大楠公奮忠事歴』	158, 162, 170
第二次大本事件	302
大日本生産党	292
『太平記』	145, 152
大麻	405, 411~413, 417, 421, 423, 424, 427, 428
建水分神社	155, 169, 170

近代遙拝所 177, 178, 188
 楠大神社 156, 157
 『楠氏遺跡志』 167
 楠氏紀勝会 166, 167, 169, 172
 『楠氏研究』 163
 楠木城 147
 宮内卿 131
 宮内省 252, 381
 宮内庁 115
 黒住教 365
 軍人勅諭 487, 488
 経済国策研究会 289, 303
 血盟団事件 289
 建国会 288
 建国記念日 495, 496, 502, 505, 515, 516
 憲本合同 469
 建武中興 145, 146, 152, 250
 建武中興関係史蹟 147
 建武中興六百年祭 147
 皇恩社 64
 皇居 329
 『皇国時報』 423
 皇室財産 380
 皇室祭祀令 137
 皇室神道 116
 皇室中心祖国国民衆主義 264, 267, 270
 皇典講究所 364, 374
 皇道会 289
 公土公民 266, 267
 孝明天皇祭 190
 皇陵巡拝 70
 皇靈祭 131
 皇靈祭祀 116, 119
 凍豆腐 168, 169
 湖岸道路 228, 230
 「国史一本槍」入試 471, 472
 国体 408, 419, 422, 425
 国体明徴 226, 227, 250, 417, 421, 425
 国体論的ナショナリズム 249, 273
 国定教科書 440
 国民健康保険法 485
 国民精神総動員 147, 417, 422
 国民同盟 274
 黒龍会 292

御香宮神社 87
 『古事記』 502, 505
 国家改造運動 282, 286, 288, 291, 294, 303, 304
 国家神道 47, 71, 97, 132, 138, 433, 434, 438
 五・一五事件 289
 辞別 104
 五人組 484, 488
 米騒動 439
 御用絵師 313, 315, 318, 319, 326
 御料局 382, 383, 390, 391, 395, 396
 御料地 380~382, 390, 395
 御料林 384
 金剛山 162, 168
 金剛寺 147
 誉田八幡宮 158

さ行

在郷軍人会 185, 187, 195, 200~202
 榊葉神明宮 91
 桜井駅 145, 146, 152, 153
 里見日本文化研究所 289
 山陰新聞社 238, 240
 三月事件 287
 三韓征伐 85~87, 96, 101
 参宮急行電鉄(参急) 443
 山陵祭 126
 史学会 495, 496, 510~512
 式年祭 125
 式年遷宮 435, 441
 式部職 132
 式部寮 121
 『時事新報』 255, 346, 347, 354
 四條畷神社 162, 164~167, 171
 四條畷の戦い 160, 161
 四條畷表忠碑 161, 163
 支那事変博覧会 223, 238~242
 社会誌 406, 409
 修学旅行 446
 十月事件 287
 修史館 161
 『週報』 422, 423
 小中農教倶楽部 263, 274
 小南木神社 159, 163

【事 項】

あ行

赤坂(阪)城	145, 147, 162, 167
赤羽神社	106
アジア太平洋戦争	466
足尾銅山	258, 259, 269, 271, 272
安宅住吉神社	89
新しいナショナルリズム	434
坐摩神社	167
石倉市政	227, 230～232, 234～237, 243
伊勢神苑会	468
伊勢神宮(大廟)	345, 348～350, 356, 362, 371, 372, 375, 376, 405, 407, 418, 426, 428, 433～437, 439, 440, 455, 456
板谷(派)	315, 316, 318
石清水八幡宮	89
宇佐八幡宮	92
卯辰観音院	91, 92
卯辰八幡宮	90, 93, 94, 107
宇都宮藩	116
畝傍檀原教会	59, 61, 63, 65, 66, 68
畝傍檀原皇祖教会本院	64
畝火教会	59
畝傍公園	67, 69
宇美八幡宮	87
管内神社	104, 106
『絵本楠公記』	145, 171
大阪会議	161
大阪電気軌道(大軌)	443
大阪陸軍幼年学校	147
大鳥神社	158, 159
多坐弥志理津比古神社	59
大神教会	54
御師	410, 411
鬼退治伝説	85
尾山神社	96, 100, 106
御嶽教	51
御嶽教天龍教会	50
御嶽教天輪王教会所	50

か行

開明社	382～385, 387～392, 395, 396
廻礼	444
画学校	320, 324～326, 332, 333
加賀八幡起上り	83
革新官僚	471
角柱	181
檀原宮	55
檀原神宮	45, 46, 86, 179, 182, 184, 439, 452
檀原神宮講社	68, 70
「檀原神宮十六景」	67
金沢開始三百年祭	99
金谷御殿	98
狩野(派)	315, 318
川下げ	382, 385～387, 391, 392, 394
『河内名所図会』	157
川俣事件	259, 264
鑑画会	330
韓国併合	106
観心寺	158
『観心寺史要』	159
関東軍	287
関東大震災	445
惟神の道	97
『観文堂額由来記』	103
官有林	384
官林・官有山林原野	382
起業公債	86
紀元節	103, 496, 502, 505～517
紀元二六〇〇年	178, 183
「義人記念録」	261
『義人全集』	262～264, 267, 268
逆賊	255, 272
京都画壇	313, 317, 321, 322, 324, 326
郷土史	266, 270
京都美術協会	331
教派神道	45～48, 70
教派神道(狭義)	47, 48, 54, 55
教部省	121
キリシタン墓碑	467
近代創建神社	45, 46
近代天皇制	186, 187, 203, 249, 405

松方正義	352, 357, 358
松平康昌	290
松村光三	272
松村仙造	285
松本善録	52, 53, 64
三浦梧楼	369
三笠宮(崇仁)	495~517
三谷清	287
水戸光圀	150
南次郎	286
蓑田胸喜	299
美濃部達吉	253, 256, 294
宮井貞彦	98
三宅雄二郎(雪嶺)	351
宮里(防南)忠次郎	64
宮地茂平	368
宮武外骨	370
武藤山治	255
村上義雄	99
明治天皇	86, 122, 146, 149, 161, 284, 297, 298, 300, 304, 410, 438, 440, 445
目加田護法	375
毛利敬親	364
本居豊顕	358
桃井直正	158
森有礼	345~363, 367, 368, 370~375, 435
森寛斎	322~324, 331, 333
森田柿園	97
護良親王	147

や行

薬師寺晃照	427
安井英二	465, 471, 472, 490
安岡正篤	486
安河内麻吉	415
山井栄子	137
山崎延吉	482
山田顕義	352, 358, 369, 373
山高信離	314, 328, 329
芳川顕正	370
吉川勝司	50~53
米澤弘安	101

ら行

頼山陽	145, 152
李東郭	102
盧占魁	285

わ行

若槻礼次郎	284
渡辺吾朗	392
渡辺昇	152, 153
渡辺洪基	354, 355, 358, 359, 361

田中正造	258, 259, 261, 262, 265, 269, 270
田中澤二	283, 284, 288, 295, 296
田中智学	281, 283, 284, 289, 290, 295~297, 303
田中光顕	290
田邊信成	386~388
谷喜一	157, 158
谷森善臣	121
秩父宮	497
仲哀天皇	91
張作霖	285
塚本清治	413, 414, 416, 427
辻新次	354, 357, 358, 361
出口字知麿	299
出口王仁三郎	273, 280, 285~287, 290, 292, 293, 298, 300~302
出口なお	280, 292
出口直日	287
出口日出麿	287
寺本慧達	424
天坊幸彦	477
土肥原賢二	287
東郷平八郎	284
頭山満	260, 290
徳川慶勝	148
徳川慶喜	124
戸田忠至	121
富岡鉄斎	158
富田治部左衛門	90
富村準一	287
外山正一	361

な行

中川元	354, 360
中島久万吉	250, 251, 254
長島隆二	292
永田鉄山	290
中田美則	65
仲谷長一郎	166, 168
中西音治郎	50
中山慶子	134
半井清	474, 475
新海梅麿	59~61, 65, 66
和田源(賢)秀	160, 165

西内成郷	61, 63, 68
西川平忠	197
西田又二	389~391
西野文太郎	345~347, 353~355, 363~373, 375
西村捨三	164~167
西四辻公業	165
乃木希典	104
野口春蔵	262, 264, 269, 271
野村彦四郎	361

は行

パークス, ハリー・S	153
花輪正摸	63
林逸郎	299
原田熊雄	287
東久世通禧	148, 149
一松又治	414, 415, 427
ヒトラー, アドルフ	478
平沼騏一郎	423, 436
平山省斎	358, 359
廣瀬吉進	94
フェノロサ, アーネスト	328
福島一造	413
藤井斉	286
藤田精一	163
船口万寿	289
古河虎之助	254
不破彦三	90
別宗祖縁	102
誉田別命	88

ま行

前田綱紀	95, 102, 107
前田利家	97, 107
前田利嗣	99
前田利常	91
前田利為	99
前田利治	92
前田直信	98
前田斉広	83
前田慶寧	95, 96, 98
前田米蔵	444
牧野伸顕	284, 290

勝田永吉 468, 470
 加藤完治 482
 加藤里路 98
 加藤高明 284
 嘉納治五郎 364
 鎗木勢岐 91
 川島浪速 286, 287
 川島芳子 287
 河瀬秀治 327, 330
 河野法雲 424
 川端信治郎 470
 川村景明 361
 菊池侃二 167, 169
 菊池大麓 361
 菊池武夫 252, 253, 257, 294
 貴志彌次郎 292
 北畠親房 147
 北村整三 385
 北村隆光 285
 木戸幸一 290
 木下尚江 268, 269
 桐山純孝 98
 九鬼隆一 354, 373
 楠木正成(大楠公) 145~147, 149, 150,
 152, 153, 155~157, 159, 163, 166, 168,
 169, 171, 359
 楠木正行(小楠公) 145~147, 152, 153,
 155, 156, 160, 163~166, 171
 葛卷藏人 93
 熊山真理 64
 栗原彦三郎
 252, 258~263, 265, 267, 270, 271, 274
 黒田清隆 352, 356~358
 黒本稼堂 102, 103, 107
 孝明天皇 117
 五代友厚 161, 162
 後醍醐天皇 145, 155
 近衛文麿 417, 422, 471, 472
 木場貞長 348
 小林省三郎 286
 小林六左衛門 94
 後村上天皇 159

さ行

西園寺公望 287
 西行法師 455, 456
 税所篤 155~163, 166, 169
 座田重秀 354, 367, 368
 斎藤謙蔵 465
 斎藤孝治 372
 佐上信一 416
 相良長綱 357
 櫻井能監 364
 佐々井一晁 290
 里見岸雄 289
 三条実美 161, 163, 165
 重野安繹 357
 四條暁表忠 161
 島田宗三 268
 島津久光 147
 章嘉活佛 286
 正力松太郎 254
 昭和天皇(裕仁皇太子) 146, 298
 神功皇后 84~86
 神武天皇 45, 84, 85, 183, 283, 284, 296,
 298, 304, 507, 514
 菅原道真 94, 359
 杉紫郎 424
 鈴木喜三郎 416
 鈴木貞一 483
 鈴木暢幸 454
 宣統帝(溥儀) 286, 287, 303

た行

大正天皇 445
 高崎親章 169, 170
 高瀬道常 189
 高津雅夫 413
 高野房子 137
 高橋常雄 425
 高松宮 497
 高山彦九郎 365
 武内宿禰 83, 85, 88, 89
 竹園真証 189
 建川美次 292
 田中義一 286

索引

*本索引は、本文中の人名・事項について重要度の高いものを検索するために作成した。
したがって網羅的な索引とはなっていない。

【人 名】

あ行

青地礼幹	102
青山恵次	98
現津御神	423, 427
暁鳥敏	425
足利尊氏	250~252, 266
厚見紀伊守	90
厚見摂津(守)	90, 93
天照大神	284, 292, 298, 303, 409, 423~425, 427
天野高信	477
鮎澤治郎兵衛	387, 388
飯沢家	394
石井邦猷	348, 349, 356, 362
石井秀雄	289
石川武美	448
石倉俊寛	226, 228~230, 236, 237
磯村弥右衛門	470, 473
伊藤俊輔(博文)	148, 161
伊藤幸野	102, 107
伊藤義賢	424, 425
稲津幸次郎	284
稲葉六郎	387~389
犬塚勝太郎	170
井上馨	358, 369
井上毅	345, 374
井上哲次郎	273
今井惣治郎	50
今城重子	137
井本常治	372
岩倉具定	357
岩下左次右衛門	148, 149

植場平	468~470
宇垣一成	286, 287
宇陀太郎	63
内田信也	449
内田良平	292
内村鑑三	375
浦田長民	409~412
英照皇太后	127
江藤源九郎	299
種田邁	392
応神天皇	91, 96, 107
王天誠	286
大植清登	467~469
大植啓治	465~467, 469~472, 474, 476~479, 481~483, 486, 489, 490
大川周明	287
大久保利武	170
大久保利通	151, 157, 158, 160~163, 170, 171
大熊権平	158, 162, 163
大隈重信	258, 260
大谷光演	425
大谷繁次郎	473, 475, 486
岡倉覚三	330, 333
岡崎鉄首	285
岡嶋市郎兵衛	93
岡田啓介	294, 297, 305, 417
岡田温	482
岡本清一	289
奥六兵衛	51
奥野陣七	52, 56, 59~61, 67~69
小河一敏	155, 156, 159, 163
尾崎拓郎	387
帯谷伝三郎	448
小和野広人	63
か行	
加賀の千代	107

John Breen (ジョン・ブリーン)

1956年生。Cambridge大学博士号取得。国際日本文化研究センター、総合研究大学院大学教授。
「近代の宮中儀礼——天皇に求められた政治」(明治維新史学会編『講座明治維新11 明治維新と宗教・文化』有志舎、2016年)、『変容する聖地 伊勢』(編著、思文閣出版、2016年)、「明治天皇の勲章外交と宮廷文化の国際性」(『季刊悠久』153号、2018年)。

平 山 昇 (ひらやま・のぼる)

1977年生。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士(学術)。九州産業大学地域共創学部観光学科准教授。
『鉄道が変えた社寺参詣』(交通新聞社新書、2012年)、『初詣の社会史——鉄道が生んだ娯楽とナショナリズム』(東京大学出版会、2015年、第42回交通図書賞受賞)、「「体験」と「気分」の共同体——二〇世紀前半の伊勢神宮・明治神宮参拝ツーリズム」(『思想』1132号、2018年8月)。

遠 藤 俊 六 (えんどう・しゅんろく)

1950年生。龍谷大学文学部史学科国史学専攻卒業。元大阪府立高校教員。
「模範村の成立と構造——明治後期民衆統合政策研究の一視点——」(『日本史研究』第185号、1978年)、「大阪府下の入営・演習・在郷軍人会」(原田敬一編『地域のなかの軍隊4 近畿 古都・商都の軍隊』吉川弘文館、2015年)、『新修茨木市史』第3巻通史Ⅲ(共編著、茨木市、2016年)。

河 西 秀 哉 (かわにし・ひでや)

1977年生。名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期修了、博士(歴史学)。名古屋大学大学院文学研究科准教授。
『明仁天皇と戦後日本』(洋泉社、2016年)、『天皇制と民主主義の昭和史』(人文書院、2018年)、『近代天皇制から象徴天皇制へ——「象徴」への道程——』(吉田書店、2018年)。

能 川 泰 治（のがわ・やすはる）

1966年生。大阪大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学，博士（文学）。金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系教授。

「大阪城天守閣復興前史」（『大阪の歴史』73号，2009年），「松尾尊兌『大正デモクラシー』を読み直す」（『日本史研究』648号，2016年），「添田啞蟬坊論」（『歴史学研究』955号，2017年）。

廣 木 尚（ひろき・たかし）

1977年生。早稲田大学文学研究科博士後期課程史学（日本史）専攻修了，博士（文学）。早稲田大学大学史資料センター講師（任期付）。

「南北朝正閏問題と歴史学の展開」（『歴史評論』740号，2011年），「黒板勝美の通史叙述：アカデミズム史学による卓越化の技法と〈国民史〉」（『日本史研究』624号，2014年），「1890年代のアカデミズム史学：自立化への模索」（松沢裕作編『近代日本のヒストリオグラフィー』山川出版社，2015年）。

福 家 崇 洋（ふけ・たかひろ）

1977年生。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程研究指導認定退学，博士（人間・環境学）。京都大学人文科学研究所准教授。

『戦間期日本の社会思想——「超国家」へのフロンティア』（人文書院，2010年），『日本ファシズム論争——大戦前夜の思想家たち』（河出書房新社，2012年），『満川亀太郎——慷慨の志猶存す』（ミネルヴァ書房，2016年）。

中 野 慎 之（なかの・のりゆき）

1985年生。京都大学大学院文学研究科博士前期課程修了。京都府教育庁指導部文化財保護課主任（絵画・彫刻・工芸品担当）。

「昭和大会画屏風の史的 position」（『京都美学美術史学』11号，2012年），「京都画壇における鴎派の意義」（『美術史』177号，2014年），「新南画の成立と展開」（『鹿島美術研究』年報31号別冊，2014年）等。

田 中 智 子（たなか・ともこ）

1969年生。京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学，博士（文学）。京都大学大学院教育学研究科准教授。

「『倫理書』編纂事業の再検討——森有礼文政期理解への一助として」（『教育史フォーラム』第8号，2013年），「近代日本高等教育体制の黎明——交錯する地域と国とキリスト教界」（思文閣出版，2012年），『明治前期中学校形成史 府県別編Ⅳ 北陸東海』（共著，梓出版社，2018年）。

池田さなえ（いけだ・さなえ）

1988年生。京都大学文学研究科博士後期課程修了，博士。京都大学人文科学研究所助教。

「明治二〇年代における皇室財産運営の特徴及びその変容——御料鉾山を素材として」（『史林』97巻5号，2014年），「明治二四年の皇室会計法制定——「御料部会計ノ部」の全章修正」（『日本歴史』816号，2016年），「近代皇室の土地所有に関する一考察——北海道御料地除却一件を事例として」（『史学雑誌』125編9号，2016年）。

執筆者紹介

(論文収録順, *は編者)

*高木博志(たかぎ・ひろし)

1959年生。立命館大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。京都大学人文科学研究所教授。
『近代天皇制の文化史的研究——天皇就任儀礼・年中行事・文化財』(校倉書房, 1997年), 『近代天皇制と古都』(岩波書店, 2006年), 『近代日本の歴史都市——古都と城下町』(編著, 思文閣出版, 2012年)。

幡鎌一弘(はたかま・かずひろ)

1961年生。神戸大学大学院文学研究科修了(修士)。天理大学文学部教授。
『語られた教祖』(編著, 法藏館, 2012年), 『寺社史料と近世社会』(法藏館, 2014年), 『祭礼で読み解く歴史と社会』(共著, 山川出版社, 2016年)。

本康宏史(もとやす・ひろし)

1957年生。金沢大学大学院社会環境研究科学位取得, 博士(文学)。金沢星稜大学経済学部教授。
『石川県の歴史』(共著, 山川出版社, 2000年), 『軍都の慰霊空間——国民統合と戦死者たち』(吉川弘文館, 2002年), 『からくり師大野弁吉とその時代——技術文化と地域社会』(岩田書院, 2007年)。

上田長生(うえだ・ひさお)

1978年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了, 博士(文学)。金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系准教授。
「近代陵墓体系の形成——明治初年の陵墓探索・治定と考証家——」(『日本史研究』600号, 2012年), 『幕末維新期の陵墓と社会』(思文閣出版, 2012年), 『世界遺産と天皇陵古墳を問う』(共著, 思文閣出版, 2017年)。

尾谷雅比古(おたに・まさひこ)

1953年生。関西大学大学院文学研究科博士後期課程修了, 博士(文学)。NPO法人文化遺産保存ネットワーク河内長野理事, 大学非常勤講師。
『近代古墳保存行政の研究』(思文閣出版, 2014年), 『戦国河内キリシタンの世界』(共著, 批評社, 2016年), 「地域における文化財修理用資材確保の意義」(『月刊文化財』ぎょうせい, 2016年11月)。

市川秀之(いちかわ・ひでゆき)

1961年生。関西大学大学院文学研究科博士前期課程修了, 博士(文学)。滋賀県立大学人間文化学部教授。
『広場と村落空間の民俗学』(岩田書院, 2001年), 『歴史のなかの狭山池』(清文堂出版, 2009年), 『「民俗」の創出』(岩田書院, 2013年)。

きんだいてんのうせい しゃかい
近代天皇制と社会

2018（平成30）年10月20日発行

編 者 高木博志

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860(代表)

装 幀 北尾崇（HON DESIGN）

印 刷 西濃印刷株式会社
製 本

© Printed in Japan

ISBN978-4-7842-1955-1 C3021